

## 令和5年度旭川未来会議2030 子育て分野 第3回分野別会議 会議録

1 開催日時 令和5年9月25日（月） 午後6時から午後7時30分まで

2 開催場所 旭川市第二庁舎 3階 問診指導室（旭川市7条通10丁目）

3 出席者（参加者） ※敬称略，五十音順

田中 慶人，早川 由理，松澤 美沙，山田 寛，吉田 育子

4 出席者（市側）

（運営事務局）

子育て支援部 竹内次長

子育て支援課 高橋主幹，清原子育て企画係主査

（統括事務局）

広報広聴課 乙坂広聴係主査

5 会議の公開・非公開 公開

6 傍聴者 なし

7 会議概要

テーマである「自分らしく子育てできるように，みんなでできること」について，トライアルの実施結果報告のほか，全体報告会における報告内容及び報告方法の協議を行った。

主な意見の内容は次のとおり。

### <トライアル実施結果について>

※運営事務局から実施結果について説明した後，意見交換を行った。

（モニターの反応・感想）

- ・ 制度やサービスの全体がつかめたのがよかった。
- ・ すぐろくの表現が非常にわかりやすい。
- ・ 難しそうな雰囲気がなく，見やすい，入りやすい。
- ・ 未婚の女性からは「勉強になる」との声が聞かれた。
- ・ 60歳代の女性からは，紙媒体は半年で古くなる。冊子を開く気にならない，余裕がない人もいるだろうから，チラシ形式での広報誌への折り込みや，こども一からのリンクなどが貼られていればいい，という指摘・意見もあった。
- ・ 職場の保育所で保育士に渡したところ，子どもや保護者とのやり取りに関する内容が載っていたので，おもしろがって食い付くように見ていた。

- ・ 保育所の入口などに配置し、保護者が気軽に手に取れるといいと思った。
- ・ 自然と多くの人の目にふれる場所に置けるといい。
- ・ 若い友人に渡したところ、制度のことは難しくて調べても分からないが、このように紹介してもらえると分かりやすいとの声があった。
- ・ 相談窓口の紹介に関して、例えば一時預かりなど、細かい相談先まで一覧になったものはないとの声があった。
- ・ 幼稚園・保育所選びに迷う人も多いという話も聞いた。
- ・ 職場の同僚、ママ友に渡した。すぐろくがすごく評判よかった。見やすい。
- ・ 小学生の子どもがいる人は、子どもの遊び場マトリクスも参考になったとの声があった。
- ・ 字が小さくて見にくいとの声もあった。

(意見交換)

- ・ 広報誌に分割、定期で折り込むのはいいと思う。
- ・ 幼稚園・保育所選びの参考になるパンフレットはあるし、いろいろな制度も子育てガイドブックなどに載っているが、個別の情報を分かりやすくまとめて伝えるにはどうしたらよいかということが課題。
- ・ どこまで、何に、どのように載せるかが難しい。
- ・ 子育て支援ナビゲーターの存在も知ってもらえたらいい。

<全体報告会について（報告内容・報告方法）>

(報告内容（発表用スライド案について）)

- ・ 全体の構成としてはいいと思う。
- ・ いろいろな年齢や立場の人が参加しているので、参加者のページについて、それぞれの背景（身分、属性や子どもの有無など）が分かるようにしてはどうか。
- ・ テーマの説明について、これまでの議論の中で「子育て中の人はもちろん、これから子育てしていく人に“なんとかなる”、“見守っている”ことを伝えたい。しっかりと情報を伝えていきたい。」という意見があり、そこが前提になっているし、参加者共通の思いなので、そうした表現を追加したい。
- ・ 「こども一着」に「集う」というテーマでの検索機能があるといい。コロナ禍が終わり、人が集まり出す中であって、集まったり活動する場所を探すのに困ることがある。
- ・ 子育ての「ネガティブ」を発信するという表現に少し違和感がある。「不安を安心に変える」という視点で言い換えができないか。
- ・ トライアルの実施結果についてももう少し触れたい。
- ・ 最後にある「その他の意見」について、まずいろいろな意見が出て、そこから議論がスタートしていった流れを伝える意味で、最初に載っていてもいいかもしれない。
- ・ 次年度以降につなげていく意味では、最後に載っていてもいい。※全員賛同
- ・ 子育てガイドブックはあるし、情報量は豊富だけれども、子育て世代でも認知されていなかったり、読み手によっては分かりにくさがあったことを踏まえて、案としてリアル子育てガイドブックを考えたことをスライドに入れたい。

- ・ 各自で改めて内容を確認し、修正や追加があれば事務局に連絡する。

(報告方法)

- ・ 昨年の未来会議で若者分野の発表がおもしろかった。発表のときは全員で登壇したほうがいい。
- ・ 昨年は子育て経験者のみで構成されていたが、今年は新しく若い皆さんも参加してくれて、昨年から引き続きのものもあれば、新しい視点での意見もあった。昨年からの経過を話したり、新しい提言をしてくれたりしながら議論してきたことを伝えながら、最後に全員で声を揃えて発表するというのも、全員が声を出せるのでいいのでは。
- ・ 昨年の若者分野の最後で示されたイラストはとてもよかった。
- ・ 議論の前提となった「若者が子育てに不安や疑問を感じている」ということを、若い参加者の皆さんから実際に発表してもらえるといい。

以上